



## 日医会長選挙について

副会長 長瀬 清

去る4月1日、2日の両日、第110回日本医師会定例代議員会が開催された。今回は新しい医師会の指導者を選ぶという、極めて重要な会であった。

初日、議長、副議長の選出の後、日本医師会会長選挙が行われた。

選挙には当初4名の候補者が名乗りを上げ、激しい選挙戦が繰り広げられてきた。終盤に入ってもまず東京と愛知が手を結び、次いで直前になってこれに大阪が連合する事態となった。

選挙の結果は、大阪、愛知、東京の統一候補の植松治雄氏が、有効投票数342票（うち白票4票）のうち211票を獲得、青柳俊氏は127票にとどまった。

選挙にあたって青柳候補が掲げたのは、次のようなものであった。

- ・会員間に広がる閉塞感、医師会に対する不信感を払拭しなければならない
- ・坪井会長の高い理念は継承し、加えて自分流の新しい日医を創造する
- ・選挙運動の在り方そのものから変えていく
- ・スタッフ（キャビネット）は出来るだけ若い実務的なメンバーを、公募し選択する
- ・人事の取引等の闇取引は、極力避ける
- ・選挙公約（マニフェスト）を示し、支持を求める
- ・多くの会員の認識を高めるために、候補者が一堂に会して、意見を述べ合う場の設定を願う
- ・個人的には、代議員であるなしに係わらず、広く考えを知ってもらい、意見を述べ合う会「先見創意の会」を作り、賛同者を募る
- ・「先見創意の会」を中心とした、政策勉強会を広く行う
- ・これまでのようなブロック単位の運動の進め方

でなく、個人の意志を尊重するものでありたい。このような考えで運動を進め、それなりの評価を得た。

介護保険制度の設立、実施指導に尽くしたことから全国的に多くの支持者がいて、力強い支援をいただいた。

昨年10月12日、会長選に立候補声明はしたが、残された約半年の医師会副会長としての会務遂行と、診療報酬改定時期の中央社会保険医療協議会（中医協）の医療側委員の責任者としての仕事のために、自身で選挙活動が全くできないという致命的なハンデを背負った運動であった。

「先見創意の会」による勉強会の開催、提案した候補者立会演説会での意見陳述、全国各地をまわっての具体的方策を含めての考えの披露を行った。

選挙の10日前には、若い力を中心とした老・壮・青のバランスを考えたキャビネットを公表した。

選挙の結果は、これらの新しい試みが、もっと広く行き渡らせられなければならないことを痛感させられるものであった。

代議員の年齢構成が、平成14年時と比べると少し若返ったとはいえ、代議員342名中7,80歳代111名（14年時 130名）、60歳代182名で、4,50歳代が僅かに増えたとはいえ49名（14年時 35名）しかいないことも、従来型の選挙手法から脱却できない理由でもあったと考えられる。

植松新会長が代議員の質問に答えた中に、会員から寄せられた意見に、代議員の長期化問題と年齢の若返りがあり、今後考えなければならないとあり期待をしたい。

選挙運動開始直後、会員からと、代議員会議事

運営委員会でも、日医の選挙規定の不備が指摘された。

- ・選挙管理委員会がないこと
- ・当選が有効投票の3分の1で決まること
- ・キャビネット選挙では、複数の候補者があったとき、優秀な人材を失う恐れがあること
- ・代議員の年齢構成から、若い人の意見が入りにくい
- ・会員の直接選挙も視野に入れて、会長の選出方法を検討する

等の意見がある。次の選挙の前に、十分な検討をするべく、早急に定款検討委員会を設置する必要があるだろう。

長くもあり、短くも感じた今回の会長選挙戦で

あった。

直接会って考えを良く理解して貰うには、時間・体力・資金がかかりすぎるのが最大の問題である。ブロック頼みの選挙の在り方では、いつまでたっても医師会に対する閉塞感、不信感を取り除くことはできない。選挙で得た票数がそのまま会員全体の思いを表しているとは言えないだろう。

新しい日本医師会執行部には、会員の多くから良かったと言われるような会の運営を期待したい。

今回の選挙にあたって、支援して下さった北海道医師会会員ばかりでなく、全国の先生方に心から感謝申し上げます。

## お知らせ

### 北海道医報投稿にあたって（お願い）

#### ◇情報広報部◇

北海道医師会では、会員の皆様からの原稿を募集しております。下記の要領をご留意のうえ、ご投稿くださいますようお願い申し上げます。

#### 1. 原稿の縮切

毎月1日発行：前月15日

#### 2. 原稿の体裁と字数制限

- (1) 原則として横書きといたします。
- (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
- (3) 誤字、脱字等は情報広報部において訂正いたします。
- (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。

医報1頁は医報用原稿用紙（22字×11行）6枚、または市販原稿用紙（20字×20行）で約3枚半です。パソコン等を利用の場合は、1行の文字数を22字で設定してください。医報1頁は

60行となります。

また、長文原稿および連載物は、情報広報部にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

- (5) できるだけメールまたはフロッピーディスクでお寄せください。

#### 3. 原稿の採否決定

内容が掲載に支障があると判断した場合は、執筆者に訂正を求めるか、または掲載をお断りすることがあります。

#### 4. ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第二課

TEL011-231-1725 FAX011-252-3233

E-mail：ihou@office.hokkaido.med.or.jp